

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101669		
法人名	株式会社 富永調剤薬局		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	岡山市南区川張1300-1		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 24 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101669-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の生活歴や趣味、役割に着目しレクリエーション、施設内での役割、本人の得意とする絵や趣味活動などを生活に取り入れ張りのある生活を過ごして頂くように心がけている。また食べる事の楽しみとして利用者と一緒に作るおやつ作りや、毎週日曜日のパン食などを楽しんで頂いている。訪問診療、訪問看護、による健康チェック、訪問薬局との連携も取れており体調の変化にタイムリーに対応できている。入院された方の再入居、また看取り対応もできる限り対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

何と言っても朴訥な性格に感じる管理者がいて、運営しながらアクティブに行動して、職員を巻き込み、介護に徹している施設であった。職員も、それに応える様に仲が良く、何でも話せる関係を保ち、風通しの良い組織となっている。職員の一人一人の意識も高く、利用者の意向や昔培ったお化粧の楽しみや絵を描く事を、さりげなくテキパキとバックアップして、一人一人の能力を最大限に引き出す配慮も節々に表していた。利用者だけでなく、家族に対しても尊敬の念を以って恩返し出来る体制も築いている。今は、コロナ禍だが、外出の代わりとなる室内で出来る試みのゲームや作品作りに工夫を凝らし、ストレス解消の一つとしている施設となっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、玄関ホールに掲示し、全職員がいつでも目にする事が出来る。毎朝の朝礼で唱和し、実践につなげている	理念を事務所内、玄関ホールに掲示し、全職員がいつでも目にする事が出来る。理念を実践に繋げる為に、毎日の朝礼で唱和し、毎月の会議の中で年間研修のテーマを追いかけつつ、学びを深め共有している。新入職者には、母体法人で座学と事業所で同行し、理念を理解して頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の場で行政や地域との交流を図る為の情報交換を行っていたがコロナウイルス感染対策の為書面での交流としている	目の前が通学路なので、いつでも顔を見て挨拶を交わせる関係となっている。隣家から食べ物や消耗品の差し入れがあったりする。また、行政からの研修会や講演会の案内を民生委員宅へ持参して、顔が見えるコミュニケーションを常に取っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会、委員会等を設け、研修で学んだことも併せて運営推進会議等で発表し、地域の方々に理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染対策の為書面にて施設の現況報告、勉強会、委員会の内容をお伝えし、各参加者からはお電話やファックスで意見を頂き参考にさせて頂いた件については次回の運営会議で報告している	書面形式で隔月に開催されている。町内会長・民生委員・包括支援センター・市の事業者指導課・家族と利用者の代表が参加者で、参加メンバーは運営に満足しており、報告が主となっている。町内会長と民生委員には、書面を自宅に持参して深い関係を保とうと努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面での運営推進会議に、地区の町内会長、民生委員、岡山市事業者指導課、地域包括支援センターの方に参加して頂いており、地域を巻き込んでケアへの支援体制をとっている。	窓口は管理者で、電話とファックスで主にやりとりしており、何でも気軽に相談出来る関係が築けている。また、地域の医療機関やケアマネジャーや地域包括支援センターに毎月、顔を出ず様にしており、応報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、委員会、研修を設け、また、外部研修を通じ身体拘束についてだけでなく、拘束というものについての知見を深めて、あらゆる拘束をしないケアを実践している。	身体拘束はしていない。年間計画の中に、年3回の勉強会、3か月毎に委員会、年1回研修を設けている。年1回の地域包括主催の研修会にも参加。原則、拘束はしないが、国で定めているボーダーラインの学びを深める事で、不測の事態にも最小限の行為で済む様に体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会、日常のミーティング等で啓発を行い、全職員が虐待について正しい理解をし、虐待が見過ごされない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、外部コンサルタント等への相談を含め、権利擁護に関して正しい理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約内容について詳細に説明させて頂き、理解を十分に得て頂いた上で締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に積極的に意見、要望等を聞き取る様に心掛けている。また、書面での運営推進会議でも意見交換を行い、要望を施設運営に反映させられるように努めている。	毎月、全ての家族に電話で現況の報告をしたり、隔月に普段の様子を写真に収めて文章と共に郵送したりしている。職員は、利用者の欲しいものや、して欲しい事を、早くに叶えやすく、家族も差し入れを持ってきやすい関係となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフミーティングだけでなく、毎朝の朝礼など意見の言いやすい関係づくりに努めている。	同じ世代のスタッフで構成されており、何でも皆に通じる事は、月1回のスタッフミーティングや毎日の朝礼で話し合い、解決する様にしている。プライベートな事は、月2回の希望休が取れる環境があり、職員通して協調し合って、働きやすい環境づくりをしている。	熱意のある管理者の意見を、もっと汲み取って欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの場や個別面談を行うことで、意見や不満の吸い上げを行い細かな対応を行うことに心掛けている。またできる限りではあるが有休消化を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作り、職員のスキルアップを図れる体制になっており、研修に対する支援体制もある。職員の興味のある内容を吸い上げておりマッチングする研修の情報提供をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者とは認知症サポートリーダー会などで意見交流を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にご本人の意向を伺い計画している。日々のケアの中で本人の希望があった時は職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設で生活をして頂く上でのご家族の意向をうかがい、専門的知識を踏まえてケアプラン作りをするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行う上でのニーズを具体化し計画書を作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が行える施設での役割を設け張りのある生活を送れるように配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の小さな変化も電話や手紙、口頭にて伝え、また一時帰宅時や昔のことなどの小さな情報も聞き取り、家族と施設とが情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話は本人に取り次ぎ自由に話してもらっている。面会制限は設けず、知人の方や地域の方々との交流が出来る様に努めているがコロナウイルス感染対策の為緊急時のみ面会許可としている	外からの電話は本人に取り次ぎ自由に話して頂いている。コロナの緊急事態も明け、面会者も戻りつつあるので、面会は最小限の制限とする様になった。散歩コースの道端や商店、木陰等が、今の馴染みの場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日常過ごされるポジション(テーブルでの席の場所)の最適な状態を考え、利用者同士でトラブルなく、仲の良い関係が作れるようにサポートしている。利用者同士居室を行き来していることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、相談があれば対応させてもらうことを伝え、良い関係でいられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介助にて得た利用者本人の思いを最大限に尊重し、カンファレンス等で検討したことを通じて自立支援を行っている。	居室、食事、入浴やティータイム等、個別に関わりやすい日々の介助の場面で意向を把握しようとしている。困難な方にも、身振り手振りや表情等で察知して、意向を把握しようとしているから、安堵の表情を醸して頂ける。カンファレンス等で更に検討して、その方なりの自立した生活に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、その方の過ごしてきた生活や環境を施設内での生活とどう融合していくかを考えてケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活のペースを尊重している。自発的に話す内容を尊重し残存機能の維持、向上を目指して生活リハビリを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやケアカンファレンスを頻回に行い、チームで情報共有し統一したケアを行っている。利用者に担当職員をもうけモニタリングを担当職員がおこなっている	ミーティングは毎月実施。状態に応じたケアカンファレンスを土台に、ケアチームで計画を作ろうと取り組んでいる。入居前に作成した介護計画を1か月後、3か月、6か月と見直し、以降は、必要に応じて見直している。作成時には、医療関係者と日頃から意見を交わした情報を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や業務日誌に記録を詳細に残し、職員が情報を完全に共有できる体制を作っている。毎朝の朝礼ではその日あったことや申し送り事項が漏れなく伝えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から要望・意見を随時聞き取り、心境の変化、体調の変化などにも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアを活用していたがコロナウイルス感染対策の為中止している。施設の敷地内で得意なことを役割にして活躍してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じ、ご本人、ご家族の要望を聞き、随時かかりつけ医等の受診介助を行っている。	入居前にかかりつけ医を選んで頂けるが、皆、提携医に転院される。他科へは、原則、家族が介助する事となっているが、状況を鑑みて職員が受診を介助している。提携医とはLINEでやり取り出来るので、連携が早い。どの医療機関とも、話しやすい関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師とは緊密に連携を取っており、体調に変化があった時には迅速に連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には速やかに対応が取れるように病院と連絡を密にし、情報交換、共有が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、本人、家族の意向を大切に必要に応じて随時利用者、利用者家族とインフォームドコンセントを重ね、書面、口頭にて丁寧に説明したうえで、同意を得るようにしている。	看取りを行っている。入居時に、本人、家族の意向を大切にしている。随時、利用者、家族とインフォームドコンセントを重ね、揺れる想いに添おうとしている。職員間では、看取った後、「もっとこうしてあげたかったね」「あの時、こうしておいて、やっぱり良かったよね」と次に活かせる語り場が、自然と出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行ったり、日々啓発を行う事によって不測の事態への即応力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、また災害対策についての勉強会や研修を設けて災害時に対応できるようにしている。	毎年、火災と地震の避難訓練を昼夜想定で行う。研修会を別途年1回行う。緊急連絡網はLINE。マニュアルに沿って避難経路を活用し、利用者と一緒に訓練をしている。備蓄は、水や乾パン等を3日分ほど用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を最大限尊重し、尊敬の念を持つと共に、接遇についても自己研鑽や勉強会を行い、クオリティの高いケアを目指している。	呼称は、苗字に「さん」を、同姓の方には、下の名前に「さん」を付ける。共有場所には、個人名を記さない。居室やトイレや風呂等への入室時にはノックをする等して、個人の尊重を図っている。年1回、接遇研修があり、管理者が講師となる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や自己判断が出来るような声掛けや選択肢を与え利用者が意思表示がしやすい関係づくりを普段から行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の意見や希望を聞き、生活習慣にあった時間の使い方が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望を聞きながら、ご本人の身体能力に合わせた身だしなみ・おしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じた食事が出来るように畑で野菜を作り利用者からどのように食べたいか伺い一緒に作り配膳している	エンドウ豆や黒豆の枝豆、玉ねぎ、プチトマト等、季節毎に菜園で野菜を収穫して、食卓に上並べている。食事はケータリングだが、米にこだわっている。残食は毎食、殆どない。	業者や栄養士を交えて食事風景やペースを見て、食材に変化を齎す様にして頂いては如何でしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水に関する勉強会を行い、高齢者にとっての水分摂取の大切さを職員全体で認識している。そして、ひとりひとりにあった食事量、食事法、水分量、摂取のタイミングなどを考えながらのケアを実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人や職員介助にて口腔ケアを実施し、また食事の際にも口腔内の状態観察を行い状況把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力にあった支援が出来る様に努めている。意思伝達が困難な方には定期的な声掛けを行い、排泄支援を行っている。タイムスケジュールで個人の排泄のリズムをつかみ個人にあった時間帯で介助している	排泄チェック表を以って、個人に合った時間帯で介助しているので、日中は原則、トレイにお連れする。夜のみ、オムツやポータブルトイレを使う方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の申し送り時に排便状況を詳細に共有している。定期的な運動と水分摂取、おなかのマッサージや食べ物で便秘にならないように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は入浴して頂いている。入浴していても入浴前、希望者はシャワー浴をしている。	週3回の入浴としているが、要望に応じて、出来るだけ、時間帯や頻度の希望を受け入れている。入浴剤を使用して気分を味わって頂いている。入浴を嫌がる方には、清拭をしたり、日や時間や言葉かけを変えたりしながら、少しでも気分よく入って頂く様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとの生活習慣を尊重し、気持ちよく休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体が調剤薬局であり、個人ごとにかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師を設定することで、服薬管理、服薬支援については丁寧な対応が行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに合った楽しみ、役割を見つけて頂き、日々の生活が単調になってしまわない様に努めている。おやつ後は毎日集団レクリエーションを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントを企画し、体調を考慮しながらではあるが敷地内の畑や近隣の散歩などをコロナウイルス感染対策に注意しながら行っている	頻繁に散歩を続けている。また、庭先でカフェタイムを楽しんだり、畑を見に行ったり収穫を手伝ってもらったり、公園に行ったりして外出を支援している。周囲に田園が多く、住宅も少ないので、敷地内に出かける事も楽しみな外出の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に金銭管理は事務所で一元管理している。しかし、外出等の際には自分のお金を自由に使うことを楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、電話・手紙の制限は設けず、その都度要望があれば行えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に過ごせる様に、温度管理を行っている。電灯を明るすぎない、温もりのあるものを取り入れている。また、外光を取り入れるように天窗をつけ、自然光も使っている。	どの場所も、一定の湿度、温度が保たれている。調光、採光も適度。木製、木彫の家具が多く、温もりを感じる。利用者で作った制作物は、毎年毎月とかけ替えており、季節を感じる。職員は、忙しいそぶりを見せない様にしており、それが、利用者の穏やかな表情の素にもなっているようだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、外や中庭を眺められるような場所に小さい机、円卓、椅子を設置し、一人になりたいとき、少人数で会話を楽しみたいときに使用できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みのものがあれば入所時に持参頂く様お願いし、入所後に快適に過ごして頂けるようにしている。	ベッドとエアコンとカーテンと筆筒が備え付け。どの部屋の窓からも、田園か山の風景が見え落ち着くので、部屋の装飾はシンプルに纏められていた。利用者は個々に、家電や家族写真や仏壇や本等、思い入れのあるものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別なものは置かず、一般的な家具を使用している。肘付椅子により、立ち上がり時の支持がしやすいようにしている。		